

西成特区構想におけるアートの可能性

アートって、
なに？

誰のもの？

お金持ちや生活に余裕のある人たちだけのものではなく、すべての人のために

わけがわからなくて、なんだか近寄りがたいのではなく、

もっと 生活に根ざしたもの

関係をつなぐもの

人と人 人と物 人と自然 人と場所 人と記憶、
もともと「アート」とはラテン語で「技術」

「アートは生きるための技術」

→工夫して生きることがアート

アートというより、表現

ということばをよくつかいます

生きることは、表現だ！

こんな具合です。

ココルームの取り組み

2003年から2007年

新世界の（いまはなき）フェスティバルゲートで舞台とカフェを運営。

2008年から、あいりん地域内で4つの拠点を運営

2008年1月～ **インフォショップ・カフェ ココルーム**

動物園前商店街で、世界各国、全国からいろんな人がやってきます。隣に座った人と気軽におしゃべり。喫茶店だけど、注文しないでおしゃべりにくる近所のおっちゃんや障がいをもつ人も。喧嘩もイザコザもあるけど、なんだかおもしろい。

2009年6月～ **カマン！メディアセンター**

カフェの向かいに、「えんがわ」みたいなメディアセンター。おしゃべり＝コミュニケーションが生まれるような状況をメディアと呼びたい。いろんな相談がもちこまれることも。

2011年5月～ **えんがわ茶屋「こころぎ」**

支援ハウス路木の管理と、一階を地域の人々の交流スペースに。

2011年12月～ **ニカイ！文化センター**

ちょっとしっぽり集中したいときに。上映会やトークショー、会議などに。カマン！メディアセンターの2階です。

毎日場をひらき、ワークショップ、ちいさな発表会、トークイベント、句会、手芸、ささやかな表現の機会をつくりつづける

アウトリーチ活動も積極的に行ない、地域のなかへ、さまざまな地域へ出前に行く

ときには、公演というかたちやシンポジウムなどを開催し、発表の機会、ふりかえり、課題を整理する機会をもうける

対象者：生活保護や年金受給者の紙芝居劇団「むすび」、地域の日雇い労働者、生活保護受給者、ホームレスの方々、こども、若者、学生、ニート、支援者、社会人、生きづらさを抱える人たち など

これまでの協働相手：アート NPO リンクなど全国のさまざまなアートの NPO、たんぼぼの家などの福祉団体、ブリティッシュカウンシルなどの海外のカウンシル、大阪市、大阪府などの行政機関、大阪市立大学、明治学院大学、大阪大学などの大学、釜ヶ崎再生フォーラムなどの地域の団体、ろうきんなどの金融機関、ダルクや淡路プラッツなど専門的な支援団体、多様な領域にネットワークし、分野を横断